



©YOKOHAMA FC

Nojima

投資家のみなさまへ

第46期 事業報告書 平成19年4月1日▶平成20年3月31日

ノジマは、スポーツ文化を通じて、
地域の皆様の発展に貢献することを目指します。



ノジマグループは横浜ベイスターズのユニフォームスポンサーです。





ノジマ鴨宮店

■ 全員経営理念

～お客様にさらに信頼されるノジマへ～

- 社会に貢献する経営
- オープンで公正な経営
- 独創的で革新的な経営
- 人間愛がある経営
- 向上心がある経営

| | |
|------------------------|---------|
| ■ ごあいさつ | P. 3 |
| ■ Q&A | P. 4 |
| ■ 財務ハイライト | P. 5～6 |
| ■ 決算の概況 | P. 7～8 |
| ■ 連結キャッシュ・フロー計算書 | P. 9 |
| ■ 品目別売上高 | P.10 |
| ■ 株式の概況 | P.10 |
| ■ トピックス | P.11 |
| ■ 子会社の状況 | P.12 |
| ■ 当社グループ関連主要記事 | P.13～14 |
| ■ 会社の概要 | P.15 |
| ■ 営業店舗 | P.15～17 |
| ■ 株主メモ | P.16 |

■ ごあいさつ

当社グループの販売状況につきましては、第2四半期以降に回復基調に乗り、AV機器、白物家電、パソコンとも好調に推移したこともあり、DVD販売事業を縮小し売上が半減している(株)イーネット・ジャパンや(株)WAVEの売上不振を補って、前年比7.8%増収の137,730百万円となりました。

収益の状況につきましては、新潟の旧(株)真電部門の不採算店舗の閉店(8店舗)を積極的に進める等業績改善をはかり損失額を大幅に削減しております。又、業績不振が続いていた連結子会社の(株)イーネット・ジャパンや(株)WAVEにつきましても、コスト削減を進め赤字額を半減させて改善に向かっております。ノジマに関しては将来の為に店舗人件費を使う等、販売管理費は増加傾向ではございますが、コントロール可能な経費であり、上記増収効果に加え、携帯電話販売事業も引き続き順調に推移していることもあり、経常利益は前年比90.2%増加し、3,105百万円となりました。

当期純利益につきましては、当初の店舗のうち減損の兆候が認められた一部の収益改善の見通しの薄い店舗(19店舗)及び翌期閉鎖予定の旧(株)真電店舗(6店舗)の当該資産等の減損(1,654百万円)を行い、バンテック社との裁判につきましても、当社の主張が通るとは考えておりますが安全を期して訴訟損失(684百万円)の計上をすることといたしました。この裁判につきましても、平成20年5月8日に控訴をいたしましたので今後当社の主張が認められるよう最善を尽くしてまいります。

又、主に平成19年3月に合併した旧(株)真電が保有していた株式(21銘柄)及び投資信託(15銘柄)について、投資有価証券の減損(342百万円)を行うことに加え、将来見込まれる課税所得の見積りの見直しを行うことで繰延税金資産の戻入(987百万円)を行いました。

以上の結果当期純利益につきましては、▲3,107百万円と大幅な赤字となりましたが、これらの積極的な処理を行うことにより、将来の負債が一掃され、今後収益の出る体質に一気に転換をすることができたと考えております。

当期の店舗展開につきましては、ノジマ8店舗の出店をすると同時に、旧(株)真電の不採算店舗をメインに計17店舗の閉店を行い、店舗効率の改善を進めてまいりました。

尚、ノジマ単体の売上につきましては、今期より携帯電話事業を100%連結子会社のソロン(株)に分割した為に単純比較を行うと減収となっておりますが、携帯電話をのぞいた物販につきましては大きな伸びを示しております。

以上の結果、当期の売上高は、137,730百万円(前年同期比:7.8%増)、営業利益は、789百万円(前年同期比:13.8%増)、経常利益は3,105百万円(前年同期比:90.2%増)、当期純損失は、3,107百万円(前年同期は当期純利益707百万円)となりました。

次期の見通しにつきましては、特に、今上期是北京オリンピックの開催もあり薄型テレビを始めとしたデジタルAV機器の需要の増加が見込まれ、又、原油を始めとした資源高の影響や環境問題意識の高まりから、省エネ機能を持った商品やオール電化家電の需要も伸張している状況にあります。当然に同業他社との激しい競争は想定されますが、これらの商品群は当社の得意とする販売分野でありますので、お客様のニーズを的確につかみ、親切・丁寧な説明でお客様に最高の「満足」を提供してまいります。同様に、携帯電話事業につきましても、割賦販売の広がり等料金プランも多岐にわたり、今以上に当社の強みを活かせる状況になると考えております。

又、当社グループの体制につきましては、通信子会社の集約や、eコマースの(株)イーネット・ジャパンとの合併を行う等、グループシナジーを最大限に発揮できる体制が整いつつありますので、管理部門・仕入部門の統合を始めとしたグループの共通部門の合理化・効率化を通じて収益性を高めてまいります。

代表執行役 野島 廣司



■ Q&A

Q 47期の店舗展開はどのようにですか。

A 当社の店舗展開の戦略としては、従来からのノジマ店舗はスクラップを終了、既存店を強化しつつ店舗数を積極的に増やし、かつ、売場面積の増大を図りながら効率の良い出店を方針としております。また、大規模小売業者告示の施行、まちづくり3法の改正等、流通に関わる法律が大きく変わる中、大型店舗へのリニューアル並びに複合型ショッピングセンターへの進出を促進していく予定です。また、複合型ショッピングセンター同士の競合が激しくなっている現在、当社単独でのロードサイドへの出店等、出店形態を多様化し収益の安定を図ろうと計画しております。お客様のニーズ、立場に立った売場づくりと仕組みづくりを続けてまいります。

Q 旧真電の事業戦略はどのようにですか。

A 旧真電に関しましては、この1年間スクラップ&ビルドも含め事業再生に取り組んでまいりました。今後は、必要によりスクラップを継続してまいります。改善傾向の店舗は、改装を実施するなどして収益力を強化してまいります。また、新潟本部は横浜本部に統合し、旧真電グループは新潟エリアとして再出発します。

Q 47期の見通しについてお聞かせください。

A サプライムローンによる世界的信用収縮による影響等により、アメリカ経済は景気後退局面を迎え、日本経済も予断を許さない状況となっております。デジタル家電業界では、寡占化が進みつつあり、ビクターがコンシューマー向け液晶テレビから撤退、パイオニアがプラズマパネルの生産から撤退、東芝が液晶パネルを外部調達に変更、ハードディスクレコーダーの規格競争もブルーレイに統一と大きく動いております。そのような中、薄型テレビに見られるように、販売数量は伸びるものの、販売単価の大幅ダウンと価格競争の激化が進み収益が圧迫されたり、パソコン周辺機器のようにマーケット自体が縮小しているもの等が主因で業界では更なる消耗戦が継続されると予想されます。47上期は、8月に北京オリンピックがあり、薄型テレビ、ブルーレイレコーダーの販売増が見込まれます。47期連結の売上高は、MD(仕入れ)部門の再編成、店舗との連携強化、店舗の運営体制の改革、さらには新店の営業力効果、子会社の整理などを鑑み、140,000百万円と前年比101%、経常利益は3,200百万円と前年比103%と硬めに見ておりますが、成長路線を邁進してまいります。当社は、更なる向上のため、今現在の施策を継続、強化すべき商品は徹底的に強化、安全、環境に優しい商品の販売に率先して取り組んでまいります。今後の新店は、大型化を推進、充実した商品構成、経営資源の集中を図ってまいります。

Q 今後のグループ戦略についてお聞かせください。

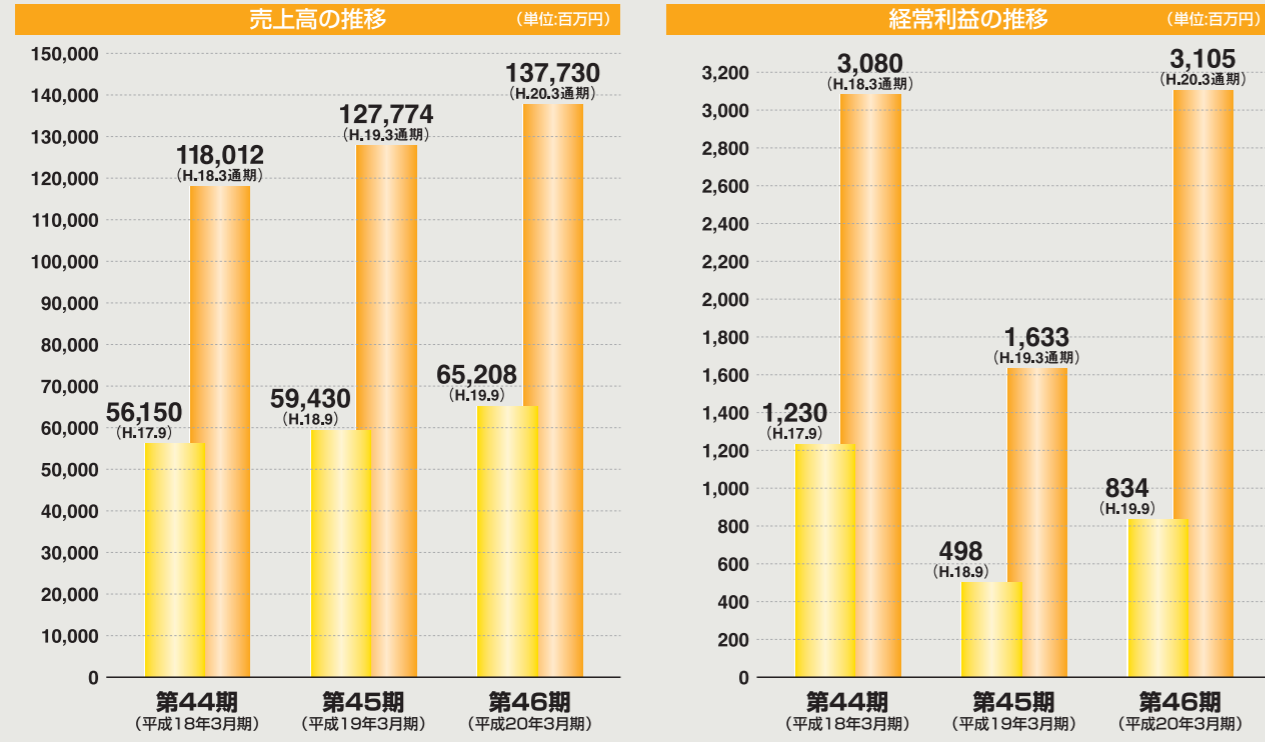
A 当社グループの本業である、家電販売、携帯電話部門の更なる伸張のために経営資源の集中を図ってまいります。また、シナジーが見込める案件につきましては、先方の財務状況、カルチャーなどを見て、機動的に業務提携あるいはM&Aを実施するか判断してまいります。

財務ハイライト (平成19年4月～平成20年3月)

連 結

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

■ 売上高/1,377億3,000万円 ■ 経常利益/31億500万円 ■ 純利益/▲31億700万円



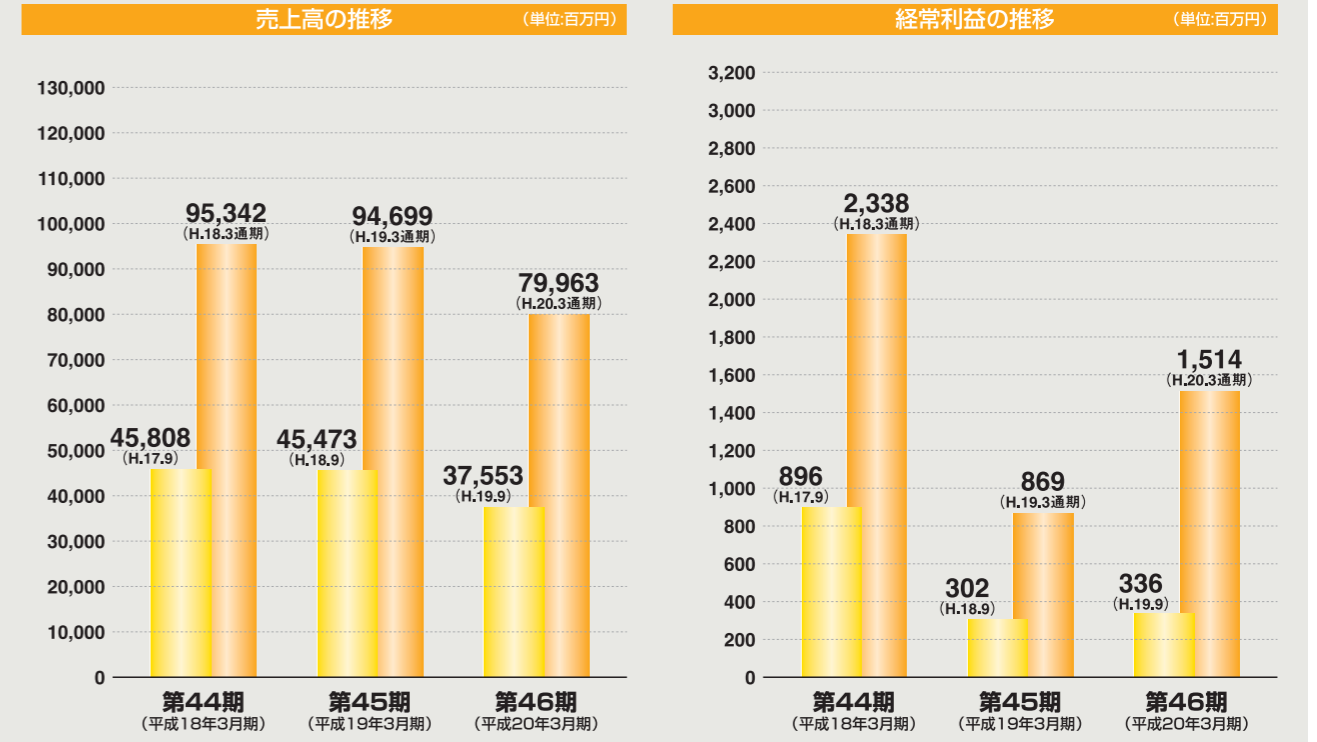
| 連 結 | 第44期 平成18年3月通期 | 第45期 平成19年3月通期 | 第46期 平成20年3月通期 |
|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 売上高 | 118,012 | 127,774 | 137,730 |
| 経常利益 | 3,080 | 1,633 | 3,105 |
| 純利益 | 1,608 | 707 | ▲3,107 |
| 1株当たり純利益(円) | 111.07 | 43.55 | ▲147.30 |
| 総資産 | 40,905 | 56,896 | 46,521 |
| 純資産 | 10,805 | 15,501 | 11,553 |

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

単 体 (注1)

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

■ 売上高/799億6,300万円 ■ 経常利益/15億1,400万円 ■ 純利益/▲34億6,100万円



| 単 体 | 第44期 平成18年3月通期 | 第45期 平成19年3月通期 | 第46期 平成20年3月通期 |
|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 売上高 | 95,342 | 94,699 | 79,963 |
| 経常利益 | 2,338 | 869 | 1,514 |
| 純利益 | 1,298 | 174 | ▲3,461 |
| 1株当たり純利益(円) | 89.71 | 10.75 | ▲164.10 |
| 総資産 | 34,746 | 48,804 | 35,431 |
| 純資産 | 10,020 | 13,891 | 9,735 |

(注1) 前期より、携帯電話販売事業が単体には計上されておりません。尚、この処理による連結売上高への影響は全くございません。

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

決算の概況

(平成20年3月31日現在。前期は平成19年3月31日現在)

連結

貸借対照表(期末)

| | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) | | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
|-------------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 現金及び預金 | 11,373 | 3,189 | 支払手形及び買掛金 | 12,732 | 12,532 |
| 受取手形及び売掛金 | 7,573 | 8,598 | 短期借入金 | 4,100 | 2,132 |
| たな卸資産 | 12,938 | 14,398 | 1年以内返済予定長期借入金 | 3,864 | 3,025 |
| その他 | 3,106 | 3,117 | 1年以内償還予定社債 | 520 | 20 |
| 貸倒引当金 | ▲32 | ▲35 | 未払金 | 3,092 | 3,600 |
| 流動資産合計 | 34,959 | 29,268 | 未払法人税等 | 451 | 668 |
| 建物及び構築物 | 5,393 | 4,544 | その他 | 1,105 | 1,225 |
| 土地 | 3,166 | 2,933 | 流動負債合計 | 25,866 | 23,204 |
| その他 | 1,789 | 1,258 | 社債 | 40 | 20 |
| 有形固定資産合計 | 10,348 | 8,735 | 長期借入金 | 7,007 | 4,217 |
| 無形固定資産合計 | 1,600 | 467 | 退職給付引当金 | 948 | 969 |
| 差入敷金及び保証金 | 6,029 | 5,973 | 負ののれん | 5,931 | 4,658 |
| その他 | 3,958 | 2,076 | その他 | 1,600 | 1,898 |
| 投資その他の資産合計 | 9,988 | 8,050 | 固定負債合計 | 15,528 | 11,764 |
| 固定資産合計 | 21,936 | 17,253 | 負債の部合計 | 41,395 | 34,968 |
| 資産の部合計 | 56,896 | 46,521 | 純資産の部 | | |
| | | | 資本金 | 4,295 | 4,323 |
| | | | 資本剰余金 | 4,710 | 4,738 |
| | | | 利益剰余金 | 6,194 | 2,827 |
| | | | 自己株式 | ▲32 | ▲493 |
| | | | 株主資本合計 | 15,168 | 11,395 |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 46 | 17 |
| | | | 少数株主持分 | 286 | 140 |
| | | | 純資産合計 | 15,501 | 11,553 |
| | | | 負債純資産合計 | 56,896 | 46,521 |

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

損益計算書(通期)

| | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
|------------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 127,774 | 137,730 |
| 売上原価 | 105,831 | 112,995 |
| 売上総利益 | 21,942 | 24,735 |
| 販売費及び一般管理費 | 21,248 | 23,945 |
| 営業利益 | 694 | 789 |
| 営業外収益 | 1,268 | 2,592 |
| 営業外費用 | 329 | 276 |
| 経常利益 | 1,633 | 3,105 |
| 特別利益 | 167 | 67 |
| 特別損失 | 611 | 4,183 |
| 税金等調整前当期純利益(▲損失) | 1,189 | ▲1,011 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 590 | 890 |
| 法人税等調整額 | 75 | 1,330 |
| 少数株主損失 | 183 | 125 |
| 当期純利益(▲損失) | 707 | ▲3,107 |

単体

貸借対照表(期末)

| | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) | | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
|-------------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 現金及び預金 | 9,640 | 1,834 | 買掛金 | 10,354 | 7,844 |
| 売掛金 | 4,844 | 3,131 | 短期借入金 | 2,700 | — |
| たな卸資産 | 10,841 | 11,473 | 1年以内返済予定長期借入金 | 3,612 | 2,747 |
| その他 | 2,840 | 2,769 | 1年以内償還予定社債 | 500 | — |
| 貸倒引当金 | ▲6 | ▲9 | 未払金 | 2,480 | 3,428 |
| 流動資産合計 | 28,161 | 19,199 | 未払法人税等 | 49 | 36 |
| 建物 | 4,922 | 4,051 | その他 | 917 | 1,052 |
| 土地 | 3,166 | 2,933 | 流動負債合計 | 20,615 | 15,109 |
| その他 | 1,617 | 1,019 | 長期借入金 | 6,320 | 3,570 |
| 有形固定資産合計 | 9,706 | 8,004 | 販売商品保証引当金 | 768 | 855 |
| 無形固定資産合計 | 243 | 247 | 退職給付引当金 | 722 | 714 |
| 差入敷金及び保証金 | 5,567 | 5,511 | 預り保証金 | 590 | 769 |
| その他 | 5,125 | 2,468 | 負ののれん | 5,763 | 4,538 |
| 投資その他の資産合計 | 10,693 | 7,979 | その他 | 133 | 138 |
| 固定資産合計 | 20,642 | 16,232 | 固定負債合計 | 14,297 | 10,586 |
| 資産の部合計 | 48,804 | 35,431 | 負債の部合計 | 34,912 | 25,696 |
| | | | 純資産の部 | | |
| | | | 資本金 | 4,295 | 4,323 |
| | | | 資本剰余金 | 4,710 | 4,738 |
| | | | 利益剰余金 | 4,871 | 1,150 |
| | | | 自己株式 | ▲32 | ▲493 |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 45 | 16 |
| | | | 株主資本合計 | 13,845 | 9,718 |
| | | | 純資産合計 | 13,891 | 9,735 |
| | | | 負債純資産合計 | 48,804 | 35,431 |

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

損益計算書(通期)

| | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
|---------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 94,699 | 79,963 |
| 売上原価 | 79,155 | 64,369 |
| 売上総利益 | 15,544 | 15,594 |
| 販売費及び一般管理費 | 15,494 | 16,289 |
| 営業利益(▲損失) | 49 | ▲695 |
| 営業外収益 | 1,093 | 2,421 |
| 営業外費用 | 273 | 211 |
| 経常利益 | 869 | 1,514 |
| 特別利益 | — | 40 |
| 特別損失 | 592 | 3,990 |
| 税引前当期純利益(▲損失) | 277 | ▲2,435 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 34 | 48 |
| 法人税等調整額 | 67 | 1,006 |
| 過年度法人税等修正額 | — | ▲29 |
| 当期純利益(▲損失) | 174 | ▲3,461 |

(注1) 前期より、携帯電話販売事業が単体には計上されておりません。尚、この処理による連結売上高への影響は全くございません。

連結キャッシュ・フロー計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで。前期は平成18年4月1日から平成19年3月31日まで。

| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | (単位:百万円、単位未満切り捨て) | |
|-------------------|----|-------------------|--------------|
| 区分 | 期別 | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
| 税金等調整前当期純利益(▲純損失) | | 1,189 | ▲1,011 |
| 有形固定資産減価償却費 | | 965 | 1,204 |
| 減損損失 | | 338 | 2,689 |
| のれん及び負ののれん償却額 | | 33 | ▲1,035 |
| 退職給付引当金の増加額 | | 37 | 20 |
| 貸倒引当金の増加額 | | 4 | 3 |
| 販売商品保証引当金の増加額 | | 94 | 86 |
| 受取利息及び受取配当金 | | ▲48 | ▲101 |
| 棚卸資産評価損 | | 702 | 223 |
| 支払利息 | | 228 | 255 |
| 持分法変動益 | | ▲158 | ▲13 |
| 固定資産除却損 | | 127 | 189 |
| 保証金等解約損 | | 25 | 61 |
| 投資有価証券売却損 | | 3 | 20 |
| 投資有価証券評価損 | | 49 | 342 |
| その他流動資産の増加額 | | ▲384 | ▲698 |
| その他 | | 940 | ▲1,244 |
| 小計 | | 4,146 | 993 |
| 利息及び配当金の受取額 | | 48 | 101 |
| 利息の支払額 | | ▲226 | ▲267 |
| 法人税等の支払額 | | ▲1,131 | ▲676 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 2,837 | 151 |

| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | (単位:百万円、単位未満切り捨て) | |
|-----------------------|----|-------------------|--------------|
| 区分 | 期別 | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
| 定期預金の預入による支出 | | ▲31 | ▲37 |
| 連結範囲変更を伴う子会社株式取得による支出 | | ▲1,261 | — |
| 有形固定資産の取得による支出 | | ▲2,409 | ▲1,411 |
| 無形固定資産の取得による支出 | | ▲214 | ▲200 |
| 差入敷金及び保証金の預入による支出 | | ▲827 | ▲597 |
| 貸付による支出 | | ▲177 | ▲392 |
| 貸付金の回収による収入 | | 107 | 381 |
| その他 | | 1,151 | 712 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | ▲3,663 | ▲1,545 |

| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | (単位:百万円、単位未満切り捨て) | |
|------------------|----|-------------------|--------------|
| 区分 | 期別 | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
| 短期借入金増加額(▲減少額) | | 2,400 | ▲1,924 |
| 長期借入による収入 | | 4,800 | 280 |
| 長期借入金の返済による支出 | | ▲3,073 | ▲3,909 |
| 社債の償還による支出 | | ▲1,070 | ▲520 |
| 少数株主へ株式発行による収入 | | 205 | — |
| 自己株式取得による支出 | | ▲68 | ▲462 |
| 配当金の支払額 | | ▲191 | ▲258 |
| その他 | | — | 0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | 3,002 | ▲6,793 |

| 現金及び現金同等物の増(▲減)額 | | (単位:百万円、単位未満切り捨て) | |
|------------------|----|-------------------|--------------|
| 区分 | 期別 | 第45期 (通期) | 第46期 (通期) |
| 現金及び現金同等物の増(▲減)額 | | 2,176 | ▲8,187 |
| 現金及び現金同等物期首残高 | | 4,881 | 10,775 |
| 現金及び現金同等物期末残高 | | 10,775 | 2,588 |

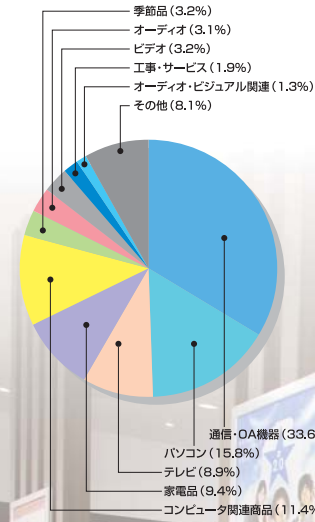
品目別売上高

(平成20年3月31日現在)

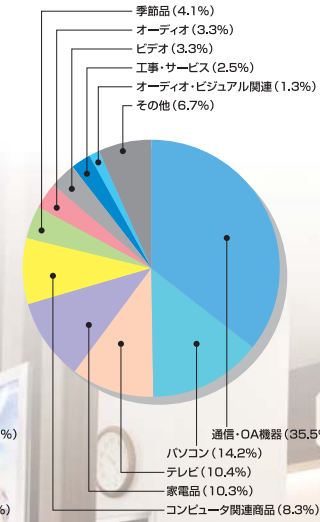
| 区分 | 期別 | 前決算 | 当決算 |
|-----------------|----|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | | 連結会計期間 (平成18年4月1日 平成19年3月31日) | 連結会計期間 (平成19年4月1日 平成20年3月31日) |
| 通信・OA機器 | | 42,947 | 48,918 |
| パソコン | | 20,228 | 19,560 |
| テレビ | | 11,392 | 14,318 |
| 家電品 | | 11,955 | 14,121 |
| コンピュータ関連商品 | | 14,565 | 11,466 |
| 季節品 | | 4,173 | 5,648 |
| オーディオ | | 4,014 | 4,585 |
| ビデオ | | 4,046 | 4,563 |
| 工事・サービス | | 2,439 | 3,462 |
| オーディオ・ビジュアル関連商品 | | 1,675 | 1,840 |
| その他 | | 10,335 | 9,243 |
| 合計 | | 127,774 | 137,730 |

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

■ 第45期(通期)



■ 第46期(通期)



株式の概況

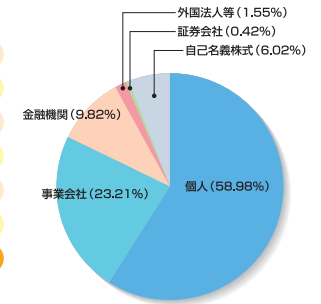
(平成20年3月31日現在)

株式分布状況

- 会社が発行する株式の総数 85,000,000株
- 発行済み株式の総数 21,662,408株
- 1単元の株式数 100株
- 株主数 7,678名

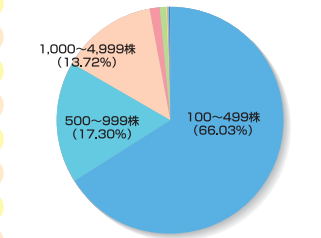
株式の所有者別分布

| | | |
|--------|-------------|---------|
| 個人 | 12,776,512株 | 58.98% |
| 事業会社 | 5,027,591株 | 23.21% |
| 金融機関 | 2,126,660株 | 9.82% |
| 外国法人等 | 334,900株 | 1.55% |
| 証券会社 | 91,600株 | 0.42% |
| 自己名義株式 | 1,305,145株 | 6.02% |
| 合計 | 21,662,408株 | 100.00% |



株式の所有数別分布状況

| | |
|----------------------|---------|
| 100~499株 | 66.03% |
| 500~999株 | 17.30% |
| 1,000~4,999株 | 13.72% |
| 5,000~9,999株 | 1.43% |
| 10,000~49,999株 | 0.92% |
| 50,000~99,999株 | 0.14% |
| 100,000~499,999株 | 0.26% |
| 500,000~999,999株 | 0.13% |
| 1,000,000~4,999,999株 | 0.07% |
| 合計 | 100.00% |



子会社の状況

1 eコマース子会社 (株)イーネット・ジャパン

当社は、日本全国のお客様にインターネットおよび携帯電話を通じ、「い〜でじ!!」のブランドを用いて商品を販売する形態をとっており、いつでもどこでも手軽にお買い物をお楽しみいただいております。現在は、自社サイトを中心に、インターネット・ショッピングモールの「楽天市場」および「Yahoo!ショッピング」に出店しており、主にオーディオ・ビジュアル、パソコン関連、生活家電、ゲームソフト、DVDソフト、カー用品等を販売しております。

平成19年7月には本店をリニューアルオープンし、取扱商品の拡大と更に充実した品揃えに取り組み、また本店独自のサービスとして、ネット業界初の7年型長期安心保証を導入、注文から最短3時間以内で出荷可能な商品を取り揃えた「い〜でじ! 特急便」を新設し、商品保証や納期についてのお客様の満足度向上に真剣に取り組んでまいりました。

それらの結果、当社自社サイト「い〜でじ!!本店」(<http://www.enet-japan.com>)の販売増加及び過当競争であったDVDソフト事業の販売方針を変更したことにより、収益面においては、赤字額が減少し、改善傾向であります。

平成20年度は、特価セールや日替わりセールを行い、その後も継続的に週末セールなどの売り出し企画を実施して、自社サイトへの来店客数増加に全力を注入してまいります。また、きめ細かいサービス提供を目指すほか、多くのお客様に、気軽にネットショッピングをお楽しみいただけるような店舗作りを進めてまいります。

平成20年10月1日付でノジマとの合併を予定しておりますが、合併後もノジマの一部門として、eコマースに注力する予定です。

(株)ノジマの店舗にてご利用できない場合は、是非当社自社サイト(<http://www.enet-japan.com>)をご利用ください。

- い〜でじ!!本店 PC版 <http://www.enet-japan.com>
- い〜でじ!!本店 モバイル版 <http://www.enet-japan.com/mb>



携帯でお買い物
左のQRコードを読み取ってアクセスしてください。
<http://www.enet-japan.com/mb/>



2 通信事業子会社 ソロン(株)及び携帯電話専門店テレマックス

46期については、上期は市場の伸び率に追いつくことができず、効率的にも一店舗当たりの販売本数、一人当たりの販売台数についても決して満足のいく結果とはなりませんでした。

下期についてはこの流れを反省し、ドコモの絶対数の確保とauの市場の伸び率の確保を前面に打ち出すことにより、まず、既存店舗で市場の伸び率をキープし、新店舗分を上乗せする実績を目指してまいりました。

戦い方として11月よりのドコモの割賦販売のスタートに対して、割賦販売とならない旧商材の確保を目指すことにより、お客様に対しての購入選択の幅の広さを目指し、よりお客様に喜んでいただける商品構成と売り場の演出を目指してまいりました。

結果として、ドコモでは市場に負けることなく総本数で前年を越えることができ、auの伸び率実績がそのままソロングループの伸び率に反映できるような下半期の結果となり、46期全体としては、市場と勝負できる結果とすることができました。特に割賦販売となることにより、一番苦戦が予想されていた携帯電話専門店グループのテレマックスのほうがむしろ下期は大きくソロングループを引く張る結果となりました。

また、市場は各キャリアの囲い込み施策、市場の成熟による一人一台の時代に突入したこと、等により、大きな伸びは期待できない市場となっておりますが、割賦販売が主流になってきた今日は、価格面での差異は余りなく、当社の強みである接客力、提案力が他社との差異になると考えております。

われわれソロングループとしては、ショップと勝負できる携帯電話専門店を一般店は目指し、ショップグループはより積極的な店舗戦略により、市場の伸び以上の成長を図ってまいります。

今期は、既存店舗の一店舗当たりの販売本数のアップを図り、積極的な出店戦略と合わせて販売拡大への取組を強化してまいります。



telmaxウィングス浜浜店

トピックス

1 横浜ベイスターズと2008年シーズンスポンサー契約

当社は、プロ野球球団の「横浜ベイスターズ」とスポンサー契約を締結しました。2008年シーズンから、選手ユニフォームの胸部に「nojima」のロゴマークを掲出し、横浜スタジアム内に広告看板が掲出されています。

ノジマは「デジタル一番星」の企業理念のもと、デジタル製品の普及を通じて、地域の皆様の発展に貢献することを目指しております。今回スポンサー契約を締結した横浜ベイスターズともスポーツ文化を通じて、地域に貢献し、今後も幅広い活動を通じて協力関係を築いていけるものと考えております。「地域の一員として、スポーツ文化を通じて、地域の皆様とより強い「絆」で結ばれたい。」ノジマの願いです。



2 横浜FCとオフィシャルクラブパートナー契約

当社は、サッカーJリーグ所属の株式会社横浜フリューズクラブ(以下横浜FC)と2008年シーズンのオフィシャルクラブパートナー契約を締結しました。2008年シーズンはトップチームのユニフォーム袖に「nojima」のロゴマークを掲出いたしました。



3 財務の健全化

当社は、平成20年3月決算時に財務の健全化、負の遺産を一掃するため、特別損失を3,774百万円、繰延税金資産1,310百万円の戻し入れを実施しました。特別損失の理由は減損損失(1,654百万円)、関係会社株式評価損(936百万円)、訴訟損失(684百万円)、投資有価証券評価損(342百万円)、固定資産除去損(158百万円)の5つがあります。

減損損失は、減損の兆候が認められた一部の収益改善見通しの薄い店舗(19店舗)及び翌期閉鎖予定店舗(6店舗)の当該資産等の評価額を減額、関係会社株式評価損は、連結子会社の(株)イーネット・ジャパンと(株)WAVE等の株式について、過去の業績不振の結果その純資産額や時価が著しく低下したことから、それぞれの関係会社株式を減損処理、訴訟損失は、平成20年4月30日付「訴訟の判決に関するお知らせ」で公表させていただいたとおり、パンテック社との間の裁判の第一審で敗訴、当社の主張が通ると考え平成20年5月8日に控訴いたしました。安全を期して将来の業績の下振れリスクをなくすために、第一審の判決を参考に訴訟損失を計上、投資有価証券評価損は、主に平成19年3月に合併した旧(株)真電が保有していた株式等(21銘柄)、投資信託(15銘柄)について、それぞれ減損処理、固定資産除去損は、当期閉店した店舗(17店舗)につきまして、当該店舗の閉店時の旧設備について除却等を行ったためであります。

また、上記特別損失の計上に加え、将来見込まれる課税所得の見積り見直しを行うことにより、平成20年3月期のノジマ個別決算にて987百万円、同様に平成20年3月期連結決算にて1,310百万円の繰延税金資産を各々戻し入れ実施いたしました。

4 スクラップ&ビルドを原則とした大型出店

46期におきましては、溝の口店、新潟本店、吉田店、上越店、丸井中野本店、掛川店、新津店、ヒリビングプラザ、富士店、あきる野とうきゅう店、加茂店、新発田店、NEW青葉台店、鴨宮家電館、佐渡店、NEW鴨宮店、守谷店の合計17店舗(旧真電8店舗)を閉店、センター北店、ユニモちはら台店、マルイファミリー溝口店、イオン新潟南店、日の出店、イオン富士南店、鴨宮店、トレッサ横浜店、オーディオスクエアトレッサ横浜店の8店舗を新規オープンまたはショッピングセンター、モールへ移設オープンしました。出店については大規模小売業者告示の施行、まちづくり3法の改正等、大型商業施設の建設が厳しくなる中、積極的にショッピングセンター、モールへの出店を進め地域NO.1になれるよう出店を実施してまいりました。

長期的な視点で競合他社との戦いを進めるべく、スクラップ&ビルドとローコストオペレーションを原則とした出店を進めてまいりました。

47期は、従来からのノジマはスクラップを終了、既存店を強化しつつ積極的に出店、旧真電の店舗は、スクラップ&ビルドを継続し黒字体質への転換を図ってまいります。

5 組織の変更

営業部門をフラットな構成に組織変更、意思決定をスピーディーに実践できるようにしました。

ヤマダ電機など上位企業が低価格を武器に攻勢をかける家電量販店業界。特定地域に店舗網を持つ中堅量販店は生き残りための新たな戦略をとるのか。神奈川県を中心

価格に挑む 戦略を聞く ▶17

親身の接客で大手対抗

野島広司・ノジマ社長



ヘルパー店員に 依存せず

「サービスをよくするために何をやるか。お客さんの目が厳しくなれば、商品をきちんと説明し、お客さんの立場になつてくれる店が喜ばれるはず。接客レベルを上げるために、まずは人を増やす。人を増やしてサービスを高め、お客さんの信頼を勝ち取る。そして売り上げ、利益を生み出すという好循環を生み出したい。」

効果の見えにくいテレビCMや媒体広告を控えるなど、内部努力でできる限り販管費を抑えたい。当社の規模で、お客さんの立場で説明できる店をつくるためにはある程度の人件費がかかるのは仕方ない。長い目で見て生産性を上げるために、最初は効果が出なくても、職場内訓練（OJT）などを通じてしっかりと人を育てる意味がある。効果は期待できるのか。これは大型店の

「二〇〇九年春は今年よりお客さんの立場で説明できる店をつくるためにはある程度の人件費がかかるのは仕方ない。長い目で見て生産性を上げるために、最初は効果が出なくても、職場内訓練（OJT）などを通じてしっかりと人を育てる意味がある。効果は期待できるのか。これは大型店の

「二〇〇九年春は今年よりお客さんの立場で説明できる店をつくるためにはある程度の人件費がかかるのは仕方ない。長い目で見て生産性を上げるために、最初は効果が出なくても、職場内訓練（OJT）などを通じてしっかりと人を育てる意味がある。効果は期待できるのか。これは大型店の

「二〇〇九年春は今年よりお客さんの立場で説明できる店をつくるためにはある程度の人件費がかかるのは仕方ない。長い目で見て生産性を上げるために、最初は効果が出なくても、職場内訓練（OJT）などを通じてしっかりと人を育てる意味がある。効果は期待できるのか。これは大型店の

記者の目

規模が仕入れ交渉力に直結する業界だけに、ノジマのような中堅量販店がヤマダ電機やヨドバシカメラらに対し価格面で勝負するのは難しい。かといって町の電器店のようない、地域ごとフェーストウフェースの深い関係を築くにも限界がある。ノジマと同規模の年商一十億円前後の企業では、東北地盤のデンコ、ドール、北陸のサンキョーがそれぞれケーズホールディングス、エディオン、ラオックの傘下に入った。ラオックも業績低迷が続く中、中堅量販店の生き残りは厳しい。

ノジマは大手の傘下に入らず自主独立路線を進む方針だ。人材育成による接客サービスの向上、長い目で利益を生み出せる。また「サービスマン」などの大手量販店も力を入れる分野。ノジマの手法がどれだけの成果を出せるのか。注目したい。

▲日本経済新聞(2008.5.8)

電球型蛍光灯でCO2削減

省エネ冷蔵庫買えば3個進呈 県と量販店がタッグ



地球温暖化防止のために消費電力の多い白熱球を減らすべく、県と大手家電量販店が協力、電球型蛍光灯の普及を広げる試みが6月から始まる。「NO」白熱球プロジェクト」と名付け、手始めに、経済産業省が定める二酸化炭素の排出量基準をクリアした冷蔵庫を購入した人に、電球型蛍光灯をプレゼントするプロジェクトに協力する。ノジマ(野島広司社長、本社・横浜市中区)。1個87

0円の電球型蛍光灯を3個セットにし、県内20店舗を含む1都7県の61店舗で計5千セットを配る。費用は同社が負担する。資源エネルギー庁によると、消費電力の多い家電製品はエアコンと照明器具、冷蔵庫が上位を占める。省エネ冷蔵庫を購入すると、二酸化炭素のさらなる削減を目指す。県によると、県内の家庭で使われる白熱球は約835万個。すべてが電球型蛍光灯になると年間約26万トンの二酸化炭素が削減できる計算で、樹齢35年のスギ約370万本が1年間に吸収する量にあたるという。電球型蛍光灯の価格は高めたが、消費電力の少なから、電気代を換算すると1個あたりのコストは3年間で白熱球より約4700円の節約になるという。県は率先して交換を進めており、横浜市中区の県庁舎内の白熱球2632個のうち約2200個を電球型蛍光灯に交換済みで、年内にはすべてを交換できる見込みだ。

▲朝日新聞(2008.5.22)

ノジマ、神奈川に大型2店

中堅家電量販店のノジマ株一株に対し、ノジマ株は十五日、五三・四二株を割り当てるネット通販子会社であるイーネットは七月、会社で大証へエクレス上、二十一日付で上場廃止の場のイーネット・ジャパンを見通す。イーネット・ジャパンを十月一日で吸収合併すると発表した。イーネット・ジャパンはDVDソフトの販売を主力事業とし、二〇〇八年四月五千万円程度の費用、三ヶ月間は一億七千万円を削減する。

ノジマの前期最終赤字31億円減損損失で赤字幅拡大。【新興】のノジマは七月、二〇〇八年三月期の連結最終損益が三十一億円の赤字(前期は七億円の黒字)となった。ただと発表した。従来予想は五億円の赤字。不採算店舗の設備を中心減損損失十六億円を特別損失に計上、赤字幅が従来予想から拡大した。

売上高は前の期比八%増の千三百七十五億円と、従来予想を二十五億円上回った。主力の家電製品の販売が既存店を中心に好調だった。営業損益は一五%増の八億円の黒字と、一億円の赤字を見込んでいた従来予想から一転黒字となった。不採算店舗の閉鎖が進み採算が改善したほか、インターネット通販を手掛ける子会社の業績も改善した。

▲日本経済新聞(2008.5.16)

ノジマ ベイスターズとスポンサー契約



ノジマは二〇〇八年シーズンのプロ野球の「ベイスターズ」とスポンサー契約を結ぶ。二〇〇八年シーズンのプロ野球の「ベイスターズ」とスポンサー契約を結ぶ。二〇〇八年シーズンのプロ野球の「ベイスターズ」とスポンサー契約を結ぶ。



▲日経流通新聞(2008.2.13)

旧真電14店 2年で閉鎖

ノジマ、不採算店整理急ぐ



家電量販店が、二〇〇七年三月に吸収合併した旧真電店の「旧真電」の大半を整理する。ノジマは二〇〇七年三月に吸収合併した旧真電店の「旧真電」の大半を整理する。ノジマは二〇〇七年三月に吸収合併した旧真電店の「旧真電」の大半を整理する。

事業赤字食い止める 34.9億円

ノジマの〇八年九月中期決算は赤字幅が拡大した。ノジマの〇八年九月中期決算は赤字幅が拡大した。ノジマの〇八年九月中期決算は赤字幅が拡大した。

営業店舗 (平成20年4月30日現在)

ソロン株式会社 営業店舗一覧

| | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| 神奈川県 | 相模原市 | ●でんわ館 相模原本店 |
| | | ●ドコモサービスコーナー相模原本店 |
| | | ●auショップ相模原本店 |
| | | ●ソフトバンク相模原本店 |
| | | ●ソフトバンク相模原駅ビル店 |
| | | ●ドコモショップミウイ橋本店 |
| | 厚木市 | ●でんわ館EXPRESS 厚木店 |
| | 川崎市 | ●ドコモショップ向ヶ丘遊園店 |
| | | ●ドコモショップ新百合ヶ丘店 |
| | 横浜市 | ●ソフトバンク新百合ヶ丘店 |
| ●ドコモショップたまプラーザ店 | | |
| | | ●ドコモショップあざみ野店 |
| 藤沢市 | ●ソフトバンク湘南モールFILL店 | |
| | ●でんわ館EXPRESS 鴨宮店 | |
| 小田原市 | ●auスクエア鴨宮店 | |
| | ●ソフトバンク鴨宮店 | |
| 東京都 | 港区 | ●でんわ館 六本木店 |
| | 足立区 | ●auショップ西新井店 |
| | 小平市 | ●でんわ館 小平店 |
| | 府中市 | ●でんわ館 府中店 |
| | 武蔵村山市 | ●DENWAKAN |
| 千葉県 | 市原市 | ●ソフトバンクunimoちはら台店 |
| 静岡県 | 榛原郡 | ●ドコモショップ榛原店 |
| | 富士市 | ●auショップイオン富士南店 |
| 山梨県 | 富士吉田市 | ●でんわ館 富士吉田店 |

※携帯電話単独店、ショップ系のみ記載しています。

携帯電話専門店テレマックス 営業店舗一覧

| | | | |
|------|-----------------|-----------------|----------------|
| 神奈川県 | 相模原市 | ●ミウイ橋本店 | |
| | 横浜市 | ●ダイエー戸塚店 | |
| | | ●モザイクモール港北店 | |
| | | ●ダイエー三ツ境店 | |
| | | ●イトーヨーカドー上大岡店 | |
| | | ●エスポット新横浜店 | |
| | | ●京急ストア鶴見東店 | |
| | | | ●スーパービバホーム長津田店 |
| | | | ●ココロット鶴ヶ峰店 |
| | 横須賀市 | ●ウィング久里浜店 | |
| 川崎市 | ●アコルテ新百合ヶ丘店 | | |
| 平塚市 | ●ラスカ平塚店 | | |
| 小田原市 | ●ダイナシティイーストモール店 | | |
| 横須賀市 | ●ショップスプラザ横須賀店 | | |
| 東京都 | 杉並区 | ●高円寺駅前店 | |
| | 足立区 | ●西新井トスカ店 | |
| | | ●エトセトラ綾瀬店 | |
| | 大田区 | ●アトレ大森店 | |
| | | ●蒲田駅前店 | |
| | 板橋区 | ●ダイエー成増店 | |
| | 西東京市 | ●ひばりが丘バルコ店 | |
| | 多摩市 | ●グリナード永山店 | |
| | | ●丘の上プラザ店 | |
| | 日野市 | ●auショップ高幡不動駅前店 | |
| 八王子市 | ●京王八王子SC店 | | |
| 世田谷区 | ●成城学園前店 | | |
| | ●下北沢駅前店 | | |
| | ●経堂駅前店 | | |
| | ●高田馬場店 | | |
| | ●くるる府中店 | | |
| | ●千代田区 | ●神保町店 | |
| | 青梅市 | ●カインズホーム青梅インター店 | |
| | 埼玉県 | 所沢市 | ●新所沢バルコ店 |
| | | ふじみ野市 | ●ビバモール埼玉大井店 |
| | | | ●ココネ上福岡店 |
| 飯能市 | ●飯能サピア店 | | |
| 蕨市 | ●イトーヨーカドー錦町店 | | |
| 越谷市 | ●新越谷ヴァリエ店 | | |
| 桶川市 | ●桶川メイン店 | | |
| 川越市 | ●川越modi店 | | |
| 千葉県 | 鎌ヶ谷市 | ●アクロスモール新鎌ヶ谷店 | |
| | 流山市 | ●流山おおたかの森SC店 | |

省エネで地球と環境に優しく。 — ノジマ環境宣言

ノジマは
チーム・マイナス6%に
参加しています。



Nojima

株式会社 ノジマ

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町6-90 HS大江橋ビル

TEL.050-3116-1212(代) FAX.050-3116-1250

「投資家のみなさま」専門メールアドレス info@nojima.co.jp

<http://www.nojima.co.jp>

■ い〜でじ!! ホームページURL

- い〜でじ!!本店 PC版 <http://www.enet-japan.com>
- い〜でじ!!本店 モバイル版 <http://www.enet-japan.com/mb>
- い〜でじ!!楽天市場店 <http://www.rakuten.co.jp/edigi/>
- い〜でじ!!楽天市場ゲーム館 <http://www.rakuten.co.jp/edigi-game/>
- い〜でじ!!Yahoo!店 <http://store.yahoo.co.jp/digicon/>
- eでじ!!Gamer's <http://aumall.jp/user/5551512>

- ソロン株式会社 <http://www.solon-inc.com/>
- 携帯電話専門店テレマックス <http://www.telmax.co.jp>
- 株式会社WAVE <http://www.waveweb.co.jp>